

琉球・沖縄 **Q&A** 年中行事

法事編



●Answer  
 綿依 龍照(きえりゅうしょう)  
 沖縄市・コザ山球陽寺住職

**Q** 本当は昨年だった父の十三回忌を、今年、執り行う予定です。延期理由は母の入院でしたが、いまだに退院のめどがたないため、致し方なく、子の私たちで行うことを思いました。ですが30代の私たち兄弟だけでは記憶があやふやで、来客数も不明だし、何を準備すべきなのかさえ分かりません。法事に必要なお供えや来訪者へのお返し、当日までに必要な手配・手順などを教えていただけませんか。

(Aさん)

**A** Aさん、そうですね。大切なお父さまの法事ですので、親族の皆さまにも納得していただきたいですね。順を追って、ご質問にお答えします。

**延期できる法事**

まず、昨年だったお父さまの十三回忌を延期した点についてですが、実は、沖縄では、公然と延期できる法事は、三十三回忌だけに限られています。その理由は、本土では一般的に五十回忌で法事を終えますが、沖縄では三十三回忌で終え

るため、最後の法事を延期することが、故人への敬いにつながるかと考えられているからです。三十三回忌のことを、沖縄の年中行事に詳しい方が「ウワイスコー(終焼香)」と呼ぶのは、そのような理由からです。もちろん、お母さまの入院という理由での延期という判断は間違っていないと思います。しかし、念のため、十三回忌を延期したことについて、丁寧に親族の皆さまへ報告しましょう。

**準備について**

法事の準備ですが、今回は、ご縁のある葬儀社に依頼してはいかがでしょうか？ 沖縄の葬儀社のレベルは、全国的にも非常に高いといわれています。参拝者の人数の確認から、お供え物の準備、法事のお返しの準備、また司祭者(仏式の場合は寺院・僧侶)の手配など、葬儀社の方なら、お葬式と同じように詳しくアドバイスしてくださるでしょう。

なにより、法事の準備を第三者に依頼することで、喪主と施主を区別できるといふメリットがあります。喪主と施主は、一般的には同一人物が務めることがほとんどです。しかし、その意味は多少異なり、喪主がお葬式・法事の総責任者で

あるのに対して、施主は、お布施などの金銭的な部分を負担する責任者といった考え方があります。

親族の方からのアドバイスを受けるのは、喪主の務めです。おそらくこれまで法事の喪主を務められていたのではないのでしょうか？ お母さまが務められていた喪主を、代理とはいえず、30代のお子さまたちだけで務めるのは、確かに心許ないかもしれません。

このようなとき、葬儀社の方に、準備だけでなく法事の席に立ち会っていただくケースも多く目にします。喪主代理のお手伝いと、司会進行役を兼ねていただくことで、その経験豊富な知識から、親族の方に対しても適切に対処して下さることでしょう。

**グソーで喜んでいただけよう**

ところで、沖縄では三十三回忌のときに「ウモーションカビ(御申紙)」という、赤・白・紫・黄色の油紙を「カビアンジ」紙灸(かみあぶり)する民間儀礼があります。赤は人間の生、白は人間の死、紫は人生の苦、黄色は人生の楽を表しているとか。すべての色が燃えたとときの灰のような黒色は、昇天といって故人の成仏を表すとの考え方もあるよう

です。不平不満を仮に人生の苦の紫にたとえたとき、これも三十三回忌の法事になくしてはならないもの。今回は、お父さまの十三回忌のご相談ですが、いずれも法事であることに変わりはありません。親族の皆さまからのご意見も、法事の貴重なアドバイスと受け止められる許容の心が持てますと、より一層、お父さまがグソーで喜んでくださるかもしれませんね。頑張ってください。Aさん。



**【質問をお寄せください】** 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は22面をご覧ください。

綿依 龍照 1968年岡山県出身(満46歳) / 学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得 / 職歴:寺院一筋 / 専門分野:哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間約100件以上の地鎮祭(起工式)を担当する / 著書:『琉球・沖縄 儀式・法要事典 作法・心得編』県内有名書店にて発売中 / 趣味:野球、大掃除、国産グッピー飼育(現在グッピーの赤ちゃんが20匹とやや減りました・泣)